

# 公益財団法人大学コンソーシアム京都

## 第1 法人の概要

### 1 代表者

理事長 黒坂光

### 2 所在地

京都市下京区西洞院通塩小路下ル東塩小路町 939 番地

### 3 電話番号

075-353-9100

### 4 ホームページアドレス

<http://www.consortium.or.jp/>

### 5 設立年月日

平成 10 年 3 月 19 日

### 6 基本財産

100,000 千円 (うち本市出えん額 50,000 千円、出えん率 50.0%)

### 7 事業目的

京都地域を中心に、大学間連携と相互協力を図り、加盟する大学・短期大学の教育・学術研究水準の向上を目指すとともに、学生の成長を促進するための学生支援、大学の国際化を推進するための国際連携・国際交流等の充実に努める。併せて、地域社会、行政及び産業界との連携を促進し、地域の発展と活性化に努め、京都地域を中心とした高等教育の発展と国際社会をリードする人材の育成を目指す。そのために、多様な連携に基づく教育、学生支援、研修、調査・研究、情報収集、情報発信、交流促進等を行い、日本の高等教育の発展に寄与することを目的とする。

### 8 業務内容

- (1) 単位互換、产学連携教育（旧：インターンシップ）などの教育に関する企画調整事業
- (2) 学生に対する支援事業
- (3) 教職員に対する研修交流事業
- (4) 国際連携、国際交流事業
- (5) 大学と高等学校等との連携による企画調整事業
- (6) 大学と地域社会、行政及び産業界との連携による調査研究事業
- (7) 大学と地域社会、行政及び産業界との情報発信交流事業
- (8) 大学と地域社会、行政及び産業界との連携等による生涯学習事業
- (9) 全国各組織との連携による企画調整事業
- (10) その他目的を達成するために必要な事業

### 9 所管部局

総合企画局総合政策室 (TEL075-222-3103)

### 10 役員名等

#### (1) 理事長

黒坂光

#### (2) 副理事長

小原克博、一楽真

#### (3) 専務理事

山田正和

#### (4) 理事

赤松玉女、桶谷守、澤田昌人、入澤崇、小野隆啓、結城実照（総合企画局長）

#### (5) 監事

栗田康文、松岡正和



目標2 「産官学民連携について」	
令和6年度 の目標	大学間連携組織として、学生・地域・行政・産業界をつなぐ「コーディネーター」としての機能を強化するとともに、行政や産業界との連携をより一層強め、京都地域の活性化につながるよう、「学まちコラボ事業」や「都市政策研究推進事業」において学生から提案された知識・アイデアを実装できるよう取り組む。

指標	「学まちコラボ事業」における行政・産業界とコラボした学生からの新規事業の応募（累積数）						(単位：件)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度			
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績（※）	目標	実績（※）
							2	

指標	「都市政策研究推進事業」における地域が抱える課題解決に資する政策の社会実装（累積数）						(単位：件)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度			
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績（※）	目標	実績（※）
							1	

※ アントレプレナーシップ事業について、事業構築後、目標設定を予定している。

目標3 「学生支援について」	
令和6年度 の目標	学生組織間の連携を深め、各組織が有するリソースや経験を相互共有することによる事業の質向上と学生のさらなる成長の支援を目的とし、学生や関係者との混ざり合いを企図した合同研修、イベントを意識的に提供する。

指標	京都学生祭典等の学生団体に所属する学生の成長実感の割合						(単位：%)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度			
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績（※）	目標	実績（※）
							60	

指標	京都学生広報部における京都の団体・企業等とのコラボレーション						(単位：団体・企業)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度			
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績（※）	目標	実績（※）
		0		0			2	

## (2) 事業実績（令和4年度）

### ア 教育事業

- (ア) 単位互換事業
- (イ) 生涯学習事業（京カレッジ）
- (ウ) インターンシップ事業

### イ 教育開発事業

- (ア) FD（ファカルティ・ディベロップメント）事業
  - a 第28回FDフォーラム
  - b FD合同研修プログラム
  - c 大学執行部塾
  - d 京都FD交流会

- e 高等教育情報 NAVI 「教まちや」
- (イ) SD (スタッフ・ディベロップメント) 事業
  - a SD 共同研修プログラム
  - b SD ゼミナール
  - c 第 20 回 SD フォーラム
  - d SD ガイドブック
- (ウ) 京都高大連携研究協議会事業
  - a 高大連携教育フォーラム
  - b 高大社連携フューチャーセッション
  - c 京都高校・大学教職員交流会
- ウ 学生支援事業
  - (ア) 第 20 回京都学生祭典
    - a 第 20 回京都学生祭典イベント
    - b 第 20 回京都学生祭典（本祭）
  - (イ) 第 25 回京都国際学生映画祭
    - a 第 25 回京都国際学生映画祭イベント
    - b 第 25 回京都国際学生映画祭（本祭）
  - (ウ) 障がい学生支援事業
    - a 第 29・30 回関西障がい学生支援担当者会議
    - b ノート・パソコン（PC）ティカーネイティブ講座
    - c 高等教員と大学教職員との懇談会
- エ 国際事業
  - (ア) 龍谷大学メルボルン短期留学プログラム
  - (イ) 英語で京都をプレゼンテーション
  - (ウ) 留学生スタディ京都ネットワーク事業
  - (エ) 留学生就職支援・交流コミュニティ運営事業
- オ 調査・広報事業
  - (ア) 調査企画事業
    - a 財団指定調査課題
    - b 「共通指標」に基づく財団基礎データの収集
    - c 次期中期計画（「第 5 ステージプラン」・「大学のまち京都・学生のまち京都計画 2019-2023」）の運用
    - d 京都 B&S プログラム
  - (イ) 広報事業
    - a 財団ウェブサイト・SNS の運用
    - b 会報等の発行
    - c 京都学生広報部
    - d 「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリ KYO-DENT の運用
  - (ウ) 都市政策研究推進事業
    - a 第 18 回京都から発信する政策研究交流大会
  - (エ) 地域連携事業
    - a 大学地域連携創造・支援事業（学まちコラボ事業）
    - b 大学×地域連携ポータルサイト「がくまちステーション GAKU-MACHI-STATION」の運用
    - c 「学まち連携大学」促進事業
- カ 総務事業
  - (ア) 全国大学コンソーシアム協議会事務局運営
  - (イ) 勤労学生援助会・表彰奨学金事業
  - (ウ) 施設管理（京都市大学のまち交流センター指定管理）運営

## 2 財務面

### (1) 目標及び実績

目標 「より効果的な事業展開に努め、長期的に安定した財政運営を図る。」	
令和5年度の目標	<p>大幅な収入増が見込めない状況に変化はないこと、また、大学コンソーシアム京都 次期中期計画（2024～2028年度）の方向性を踏まえながら、引き続き事業の選択と集中、必要経費の見直しを行い、健全な財務運営に努める。</p> <p>具体的には、オンラインを活用した会場費や資料作成経費の節減、また、次期中期計画の期中（2024～2028年度）に実施するべき事業についても経費節減の観点を含めて検証することとしている。</p>
令和5年度の取組結果（※）	
令和6年度の目標	<p>大学コンソーシアム京都の中期計画（2024～2028年度）である第6ステージプランでは、引き続き事業の選択と集中、経費の節減の徹底に努めることとしている。</p> <p>また、新規事業の実施や既存事業の充実の際には、必要経費の精査、事業のスクラップアンドビルトをあわせて行うことにより、収支均衡を維持するなど、安定的かつ効率的な財政運営を図る。</p>

指標	収入合計、支出合計（上段：収入、下段：支出）						(単位：千円)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度			
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績（※）	目標	実績（※）
	402, 257	392, 187	393, 516	392, 187			390, 000	
	395, 458	387, 382	405, 643	387, 382			390, 000	

主要財務数値								(単位：千円)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
	予算	実績	予算	実績	予算	実績（※）	予算	実績（※）	
経常収益	383, 944	378, 606	378, 566	380, 402	399, 257		405, 142		
経常費用	380, 084	372, 263	393, 049	389, 424	398, 778		412, 973		
当期経常増減額	3, 860	6, 342	△14, 483	△9, 022	479		△7, 831		
当期正味財産増減額	3, 860	6, 330	△14, 483	△9, 651	479		△7, 831		
資産合計	-	523, 541	-	511, 126	-		-		
負債合計	-	41, 625	-	38, 861	-		-		
正味財産	-	481, 916	-	472, 265	-		-		
うち累積損益額	-	381, 916	-	372, 265	-		-		

(参考) 京都市からの補助金等

(単位:千円)

		R3 決算	R4 決算	R5 決算 (※)	R6 予算
委託料	大学のまち交流センター管理及び事業 〔指定管理 (非公募)〕	168,446	169,764		187,588
その他	年会費	500	500		500
	大学地域連携創造・支援事業	3,130	1,788		2,200
	大学のまち京都・学生のまち京都推進会議	107	147		100
	「大学のまち京都」学生プロモーション	1,837	1,850		2,500
	「学まち連携大学」促進事業	8,065	6,250		-
	京都留学コーディネート業務	5,000	5,000		5,000

### 3 組織面

#### (1) 目標及び実績

目標 「研修の実施による職員の資質向上」	
令和5年度 の目標	引き続き大学間連携組織として、キャンパスプラザ京都の利用者や、多様化する高等教育の環境やニーズに応えられるよう、計画的な職員研修の実施、研修補助制度の積極的な活用により、職員の資質向上を図る。 また、近年大きな課題となっている災害等の対応について、有事の際に職員が迅速かつ的確に対応できるよう、研修の充実を図る。
令和5年度 の取組結果 (※)	
令和6年度 の目標	引き続き、大学間連携組織として、計画的な職員研修の実施、研修補助制度の積極的な活用、全職員が参加する災害対応に係る研修などを行い、職員の資質向上を図る。 加えて、中期計画（2024～2028年度）である第6ステージプランでは、行政及び大学からの出向者で構成する「クロスファンクションナルチーム」を通じて、担当業務を超えて財団のあり方や事業の方向性などを恒常的に議論する場を持つなど、大学のまち・学生のまち京都に貢献できる人材を育成する。

目標と実績	研修実施回数						(単位:回)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
	△	14	8	8	12		14	

### 第3 令和5年度の経営評価（令和4年度の経営状況に対する評価）

#### 1 所管局による評価

財務面	<p>令和4年度は赤字決算となってはいるものの、これは新型コロナウイルス感染症対策の一環として事業参加者の受付をQRコード対応とする機器を導入したこと、海外留学などコロナ禍においてオンラインで実施していた事業を対面実施としたことを主な要因とするものであり、新型コロナウイルス感染症等の影響を受ける中においても、確実な事業の実施と目的達成を目指したことによるものと考えられる。</p> <p>また、3年連続で不適合となった場合に内閣府から法人に是正が求められる公益財団法人の財務三基準のうち、令和3年度は遊休財産保有規定の基準を満たすことができなかつたが、令和4年度は基準全てを満たすことができており、適正な予算執行及び管理への取組の成果が認められる。</p> <p>引き続き、次期中期計画（2024～2028年度）を見据えながら、事業の選択と集中、必要経費の見直し等を考慮しつつ、健全な財政運営に努めることが必要である。</p>
事業面	<p>大学が集積する京都地域の特性を活かし、「単位互換事業」「インターンシップ事業」などの基幹的取組に加え、本市との協働事業である「大学地域連携創造・支援事業（学まちコラボ事業）」「学まち連携大学促進事業」や产学官のオール京都での留学生誘致・支援組織「留学生スタディ京都ネットワーク」の事務局運営を行うなど、本市施策「大学のまち京都・学生のまち京都」に推進に大きく寄与している。</p> <p>大学を取り巻く状況が厳しくなる中で、今後の状況においては、本財団への期待はより多様化していくものと予想される。定款及び中期計画である第5ステージプラン（対象期間：令和元年度～5年間）において、「財団の果たす役割」に示されているとおり、「大学間連携事業の推進」「加盟校の教育の質向上の追求支援」「地域の発展と活性化への貢献」に資する取組を更に進めていくことが求められる。</p> <p>次期中期計画（2024～2028年度）を踏まえ、本市施策の方向性と整合を図りつつ、各事業の成果・課題を整理し、期中に実施すべき事業について検証が必要である。</p> <p>また、キャンパスプラザ京都の今後のあり方についても、市内の36大学・短期大学を含む、大学コンソーシアム京都加盟大学と、引き続き議論を重ねながら検討していく必要がある。</p>

#### 2 外郭団体総合調整会議による評価

<p>令和4年度は2年ぶりに公益財団法人の財務三基準を全て満たした一方、決算はコロナ禍における対応等により費用が増加したことから10年ぶりに赤字となった。コロナ禍の転換期において、利用者のニーズを的確に捉え、創意工夫を図り、事業を実施している点は評価できる。</p> <p>団体の事業をより効率的・効果的な内容となるよう、費用対効果を検証し、更なる見直しの徹底に取り組むとともに、京都市が推進する「大学のまち京都・学生のまち京都」に寄与するよう歩調を合わせて進めていただきたい。そのうえで、団体の自主性・自律性を更に高められるよう、組織・体制のあり方の検討にも取り組んでいただきたい。</p> <p>なお、管理運営を受託しているキャンパスプラザ京都は、「持続可能な施設運営に向けた保有量の最適化方針」（令和4年3月）において、施設のあり方を検討していくことが示されている。引き続き、他施設との連携強化や機能の融合など、従来の枠に捉われない施策の展開・充実を期待したい。</p>
--